

■介護 DB 情報の第三者提供、7 年間で計 49 件 厚労省

- ・厚生労働省は 21 日、匿名介護保険等関連情報データベース（介護 DB）に格納されている介護レセプト情報などの第三者提供が始まった 2018 年度から 24 年度までの 7 年間で、提供件数が累計で 49 件あったことを社会保障審議会・介護保険部会に報告した。24 年度には 10 件の提供があった。
- ・計 49 件の種類別の内訳は、「特別抽出」と「定型データセット」が共に 21 件で最も多く、以下は「サンプリングデータセット」が 4 件、「集計表情報」が 3 件。定型データセットでの提供が 23 年 8 月に始まったことに伴い、提供が迅速化され、この形式での提供が増加している。第三者提供の申請者区分を見ると、大学・大学院（41 件）、国の行政機関（9 件）、民間事業者（5 件）などの順だった。
- ・介護 DB では、介護レセプトや要介護認定などの電子化情報を収集し、匿名化した上で厚労省が管理するサーバー内へ格納している。21 年度から運用が始まった、科学的情報システム（LIFE）の情報も格納。25 年 3 月時点の格納件数は、介護レセプト等情報が約 21.9 億件、要介護認定情報が約 8,900 万件、LIFE の情報が約 5.1 億件に上る。

※詳細は下記資料をご参照ください。

第 119 回社会保障審議会介護保険部会の資料について

令和 7 年 4 月 21 日（月）

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_57156.html